

# 令和元年度「全国学力・学習状況調査」 — 鳴門市の結果の概要と対応策 —

鳴門市教育委員会

## 1 はじめに

鳴門市教育委員会より、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習支援や生活習慣の改善などを、学校との協力のもとに図っていただくため、本市の小中学生全般にかかる文部科学省実施の全国学力・学習状況調査の結果の概要をご報告いたします。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定の学年の学力・学習状況調査であり、調査結果は本市の児童生徒の学力全体を評価したものではありません。

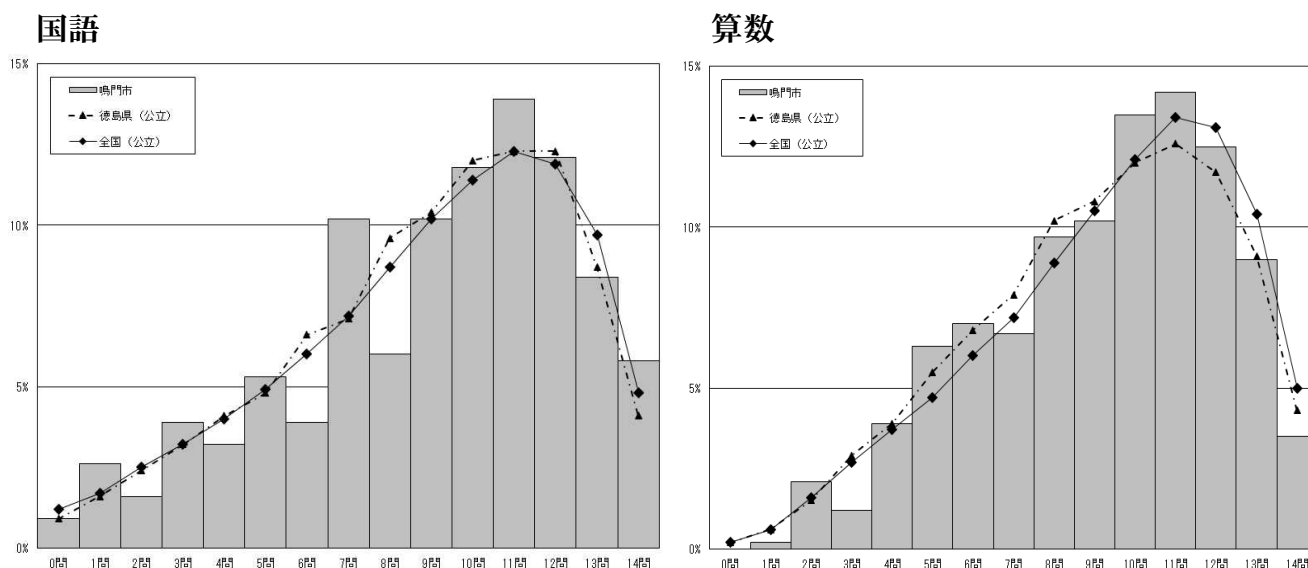
## 2 現状・課題（平均正答率より）

(1) 小学校 実施日 平成31年4月18日（木）  
実施学校数 13校 調査児童数 6年生431人

### 各テスト結果の状況

	国 語	算 数
全国平均正答率	63.8	66.6
徳島県平均正答率	63.0	65.0
鳴門市平均正答率	<b>64.0</b>	<b>66.0</b>
本市－全国	0.2	－0.6
本市－県	1.0	1.0
全国平均を上回った領域等	「話すこと・聞くこと」 「書くこと」	「量と測定」
本年度の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語は、全国平均、県平均を上回っています。</li> <li>・算数は、県平均を上回っていますが、全国平均を下回っています。</li> <li>・ほとんどの設問において、無解答率が全国平均や県平均を下回っています。</li> <li>・国語では、言語についての知識・理解・技能に課題が見られます。</li> <li>・算数では、数量や図形についての技能に課題が見られます。</li> </ul>	
昨年度との比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の話す・聞く能力は、昨年より向上しています。</li> <li>・算数の数量や図形についての技能は、昨年より向上しています。</li> <li>・正答率の低い児童の割合が、昨年度より低くなっています。</li> </ul>	

## 小学校正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



## 各テストにおける結果の概要

### 【国語】

14問中正解した児童数が最も多かったのは、全国や徳島県(徳島県は、12問も同率)と同じ11問でした。

11問正答率 鳴門市13.9% 全国12.3% 徳島県12.3%

全問正解5.8%，正解3問以下は9.0%でした。

◇「文と文との意味のつながりを考えながら，接続語を使って内容を分けて書くこと」「目的に応じて，質問を工夫すること」はよくできていました。

◆「漢字を文の中で正しく使うこと」に不得意な傾向が見られました。

### 【算数】

14問中正解した児童数が最も多かったのは、全国や徳島県と同じ11問でした。

11問正答率 鳴門市14.2% 全国13.4% 徳島県12.6%

全問正解は3.5%，正解3問以下は3.5%でした。

◇「示された計算の仕方を解釈し，かける数や割る数を選び，計算しやすい式にして計算すること」はよくできていました。

◆「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること」「示された場面において，複数の数量から必要な数量を選び，立式すること」に不得意な傾向が見られました。

## 改善のポイント

### 【国語】

- 国語科を中心に、すべての学習の中で話し合い活動を重視し、他者とかかわりながら自分の考えを明確にし表現する授業を展開していきます。
- 文中の語句の役割や意味のつながりに気をつけて、文章を読み取る力をつけていきます。
- 文章の中で漢字を使ったり、同音異義語について調べたりするなど、漢字の習得の仕方を工夫して学習します。

### 【算数】

- 補充学習や家庭学習で、混合計算を含めた、計算技能の習熟を図ります。
- 操作的な活動を工夫するなどして、図形についての理解を深めます。
- 四則計算の意味についての理解を深め、文章問題を解く力を伸ばします。
- 算数以外の教科の中でも、グラフを活用したり、読み取ったりする機会を効果的に作ります。
- 学習形態の工夫や補充的な学習、発展的な学習を生かして、個に応じた学びを充実していきます。

(2) 中学校 実施日 令和元年4月18日（木）

実施学校数 5校

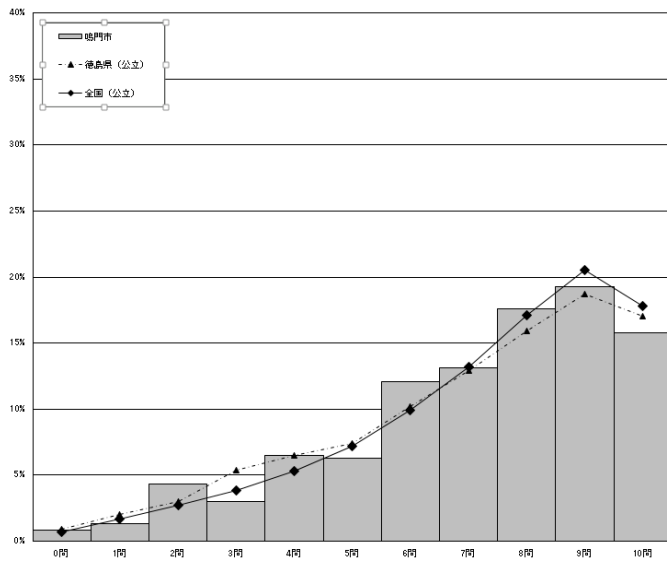
調査生徒数 3年生 国 398人、数・英 397人

### 各テスト結果の状況

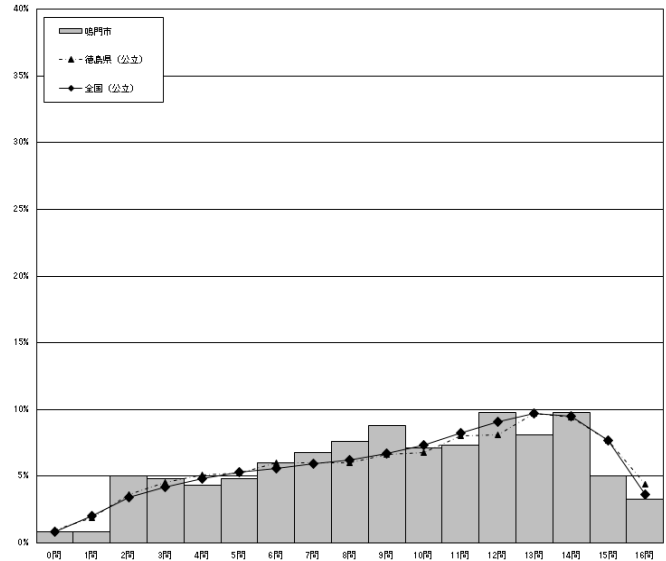
	国 語	数 学	英 語
全国平均正答率	72.8	59.8	56.0
徳島県平均正答率	70.0	59.0	57.0
鳴門市平均正答率	<b>71.0</b>	<b>58.0</b>	<b>57.0</b>
本市－全国	-1.8	-1.8	1.0
本市－県	1.0	-1.0	0.0
全国平均を上回った領域	「書くこと」	「関数」	「読むこと」 「書くこと」
本年度の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語は、県平均を上回っていますが、全国平均は下回っています。</li> <li>・数学は、県平均、全国平均ともに下回っています。</li> <li>・英語は、県平均と同じであり、全国平均を上回っています。</li> <li>・すべての教科で、無回答率が全国平均と比べて高い傾向が見られます。</li> <li>・国語では、話す・聞く・読む能力に課題が見られます。</li> <li>・数学では、数学的な見方や考え方の育成に課題が見られます。</li> </ul>		
昨年度との比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、ほとんどの評価の観点で、昨年を下回っています。</li> <li>・数学では、数学的な技能については、昨年を上回っています。</li> </ul>		

## 中学校正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）

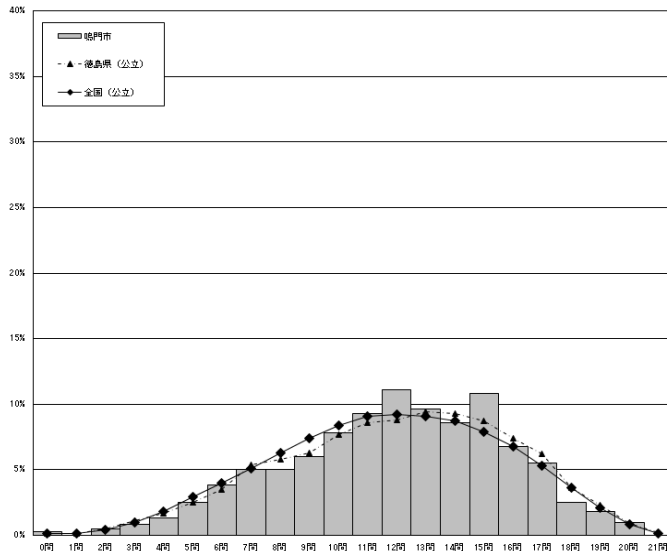
### 国語



### 数学



### 英語



## 各テストにおける結果の概要

### 【国語】

10問中正解した生徒数が最も多かったのは、全国や徳島県と同じ9問でした。

9問正答率 鳴門市19.3% 全国20.5% 徳島県18.7%

全問正解は15.8%，正解3問以下は9.4%でした。

◇「書いた文章を読み返し，論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること」は比較的よくできていました。

◆「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと」「話合いの話題や方向を捉えること」に不得意な傾向が見られました。

### 【数学】

16問中正解した生徒数が最も多かったのは、本市は14問(12問も同率)でしたが、全国や徳島県は13問でした。

14問正答率 鳴門市9.8% 全国9.5% 徳島県9.4%

全問正解は3.3%, 正解3問以下は11.4%でした。

◇「数の集合と四則計算の可能性について理解すること」「反比例の形から $x$ と $y$ の関係を式で表すこと」はよくできていました。

◆「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること」「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」「問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断すること」に不得意な傾向が見られました。

## 【英語】

21問中正解した生徒数が最も多かったのは、本市は全国と同じ12問でしたが、徳島県は13問でした。

12問正答率 鳴門市11.1% 全国9.2% 徳島県8.8%

全問正解は0.0%, 正解3問以下は1.6%でした。

◇「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くこと」「与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くこと」はよくできていました。

◆「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くこと」に不得意な傾向が見られました。

## 改善のポイント

### 【国語】

- 教材や指導法を工夫し、「国語学習は楽しい」と感じる授業を推進します。
- 書く能力、読む能力を育成するために、ワークシートやホワイトボードを活用し書くことと読むことの関連を図る授業を展開していきます。
- 国語科を中心に、あらゆる教科の中で話し合い活動を重視し、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す力をつけていきます。
- 様々な文章を書く機会を設定します。
- 読書活動を推進するとともに、場面の様子や登場人物の言動などに留意して、文章を読み取る学習を展開していきます。

### 【数学】

- 授業の導入段階で、学習問題の提示の仕方等を工夫し、生徒が意欲を持って取り組む授業を展開していきます。
- 生徒の実態に合わせて、授業のスピードや難易度を調整し、分かる授業を展開していきます。

- 「課題に対する自分の考えを持ち，言葉や文章で表現し説明する活動」を積極的に取り入れ，数学的な見方や考え方を伸ばす授業を展開していきます。
- 考えたことをまとめたり表現したりする際に，ノートを使う指導を継続します。
- 実生活に即した教材を用い，生徒の興味を喚起しながら，資料を活用する力を高めていきます。

### 【英語】

- 聞く力や書く力を伸ばすために，単語力，文法力，発音を理解する力等，基礎的なことを身に付ける授業とともに，多聴，精読を行う授業を展開します。
- 普段から継続的に，自分の考えをまとめ課題に取り組み，即興的に表現する力を伸ばせるような授業に取り組みます。

## 3 児童・生徒，学校への質問紙から見える改善のポイント

### 児童・生徒質問紙調査結果において全国平均を上回っている生活状況例

質 問		全国 (%)	本市 (%)	市一國 (%)
小 学 校	・先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	43.1	<b>46.9</b>	3.8
	・先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思いますか	59.5	<b>70.4</b>	10.9
	・学校に行くのは楽しいと思いますか	53.9	<b>62.4</b>	8.5
	・学校のきまりを守っていますか	46.7	<b>51.7</b>	5.0
	・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	85.0	<b>89.8</b>	4.8
	・日本やあなたの住んでいる地域のことについて，外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	48.7	<b>54.0</b>	5.3
中 学 校	・ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか	75.6	<b>78.8</b>	3.2
	・学校に行くのは楽しいと思いますか	45.7	<b>49.4</b>	3.7
	・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	78.3	<b>81.6</b>	3.3
	・人の役に立つ人間になりたいと思いますか	71.1	<b>75.1</b>	4.0
	・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	14.9	<b>17.6</b>	2.7
	・日本やあなたの住んでいる地域のことについて，外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	25.8	<b>32.0</b>	6.2

### 児童・生徒質問紙調査結果において全国平均を下回っている生活状況例

質 問		全国 (%)	本市 (%)	市一國 (%)
小 学 校	・自分には，よいところがあると思いますか	38.8	<b>33.5</b>	-5.3
	・将来の夢や目標を持っていますか	65.9	<b>63.0</b>	-2.9
	・家で自分で計画を立てて勉強していますか	33.1	<b>31.4</b>	-1.7
	・今住んでいる地域の行事に参加していますか	37.2	<b>29.1</b>	-8.1

校	・地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えたことがありますか	18.9	<b>18.0</b>	-0.9
	・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	39.2	<b>37.2</b>	-2.0
中 学 校	・朝食を毎日食べていますか	82.3	<b>79.8</b>	-2.5
	・家の人と学校の出来事について話をしますか	46.4	<b>41.6</b>	-4.8
	・人が困っているときは、進んで助けていますか	34.6	<b>27.7</b>	-6.9
	・新聞を読んでいますか	4.4	<b>1.8</b>	-2.6
	・今住んでいる地域の行事に参加していますか	21.0	<b>14.1</b>	-6.9
校	・地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えたことがありますか	11.5	<b>7.8</b>	-3.7

## 児童・生徒質問紙クロス集計からみた平均正答率の状況

小学校例（太字は最高正答率）

(1) 朝食を毎日食べていますか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)	
			国語	算数
している	383	88.9	<b>65.1</b>	66.2
どちらかといえば、している	29	6.7	64.0	<b>68.5</b>
あまりしていない	13	3.0	42.3	53.3
全くしていない	6	1.4	53.6	54.8

(17) 家で、自分で計画を立てて勉強していますか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)	
			国語	算数
している	136	31.6	<b>66.1</b>	<b>68.0</b>
どちらかといえば、している	172	39.9	64.1	64.5
あまりしていない	102	23.7	63.2	66.4
全くしていない	21	4.9	57.5	58.8

(21) 読書は好きですか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)	
			国語	算数
当てはまる	189	43.9	<b>68.9</b>	<b>69.2</b>
どちらかといえば、当てはまる	152	35.3	62.5	64.4
どちらかといえば、当てはまらない	66	15.3	60.3	61.8
当てはまらない	24	5.6	49.1	58.6

中学校例（太字は最高正答率）

(1) 朝食を毎日食べていますか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)		
			国 語	数 学	英 語
している	317	79.8	<b>72.4</b>	<b>61.1</b>	<b>59.1</b>
どちらかといえば、している	48	12.1	70.4	49.1	51.9
あまりしていない	17	4.3	57.1	37.5	41.5
全くしていない	16	3.8	70.0	45.0	45.7

(17) 家で、自分で計画を立てて勉強していますか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)		
			国 語	数 学	英 語
している	70	17.6	<b>74.6</b>	<b>66.5</b>	<b>60.5</b>
どちらかといえば、している	136	34.3	71.5	59.5	58.2
あまりしていない	143	36.0	71.2	56.9	56.1
全くしていない	48	12.1	66.9	45.2	50.6

(21) 読書は好きですか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)		
			国 語	数 学	英 語
当てはまる	148	37.3	<b>76.9</b>	<b>63.0</b>	<b>58.6</b>
どちらかといえば、当てはまる	103	25.9	72.6	58.3	57.5
どちらかといえば、当てはまらない	88	22.2	69.3	58.0	57.8
当てはまらない	58	14.6	58.3	45.2	50.4

クロス集計で選択肢ごとの平均正答率を比較をしていますが、小学校・中学校とも調査者数が多くないため、ごく少数の回答結果に大きく影響されているものが少なくありません。このことを踏まえた上で結果を見ても、小学校、中学校とも望ましい状況の者が、高い正答率となっている傾向にあります。

例に挙げた以外にも、いくつかの改善を要する生活状況がありました。また学校質問紙からもいくつかの改善を要する学習指導状況がありました。

それらを基に、生活と指導方法の2面から、見直すべきポイントを次のようにまとめました。

### 1 生活の見直しポイント

- ・学校と保護者の連携に努め、学習時間の確保と学習習慣の確立、主体的な読書習慣の定着を図ります。
- ・地域行事やボランティア活動等への参加を推奨し、健全な心を育成します。
- ・各校で作成している「家庭学習の手引き」の改善を図りながら、予習・復習を中心とした効果的な家庭学習の仕方を指導します。

### 2 指導方法の見直しポイント

#### (1) 指導者の学力への危機意識啓発と指導力向上や授業改善

- ・学習のねらいを明示し、分かる楽しさが味わえる授業を展開します。
- ・「板書」「ノート」「発問」を密接に関連させ、知識を構造化して捉えることがで



きる指導を推進します。

- ・学力向上実行プランの進捗状況を定期的にチェックし、計画を常に意識できるようにします。
- ・計画的、継続的に反復学習を行い、基礎的・基本的内容の定着を図ります。
- ・発展的な問題に取り組むことで、児童・生徒の学習意欲を高めるとともに、教科や領域特有の解き方、考え方を学ぶことができるようにします。
- ・一人ひとりの確実な学力向上をめざし、T.T（ティームティーチング 複数の教員による指導）、個別指導、補充学習の充実を図ります。

## （２）魅力ある学習環境整備

- ・教師一人ひとりの学級経営力を向上させ、温かい人間関係の中で、安心して学習に取り組むことができるようにします。
- ・正しい言語環境や学習規律を確立し、楽しく意欲的に学ぶ雰囲気を作ります。
- ・電子黒板等のICT機器をはじめ、教材や教具を効果的に活用し、魅力ある学習を推進します。
- ・授業時数を確保し、ゆとりある教育課程を実施します。

## 4 今後の取組方針

**学校と市教育委員会では次のことを積極的に推進します。**

- 鳴門市の子どもたちの将来を見据え、社会を生き抜くために必要な学力をつけるために、学校、家庭、市教育委員会が一体となった取組を推進します。
- 家庭との連携のもと、学力向上の礎となる基本的生活習慣の確立を図ります。
- 全国学力・学習状況調査の調査結果を各校において分析し、自校の課題を明確にして、学力向上実行プランに反映できるようにします。
- 鳴門市学力向上推進委員会を継続して開催し、各学校・幼稚園が連携して情報収集や調査結果の分析・検証を行うとともに、教師の授業力向上や若手教師の育成をめざす取組を継続していきます。
- 各中学校区において小中連携を推進し、「学びの継続」を図ります。
- 「学校評価・鳴門プラン」を活用し、PDCAサイクルを生かした学力向上を図ります。

**家庭や地域では次のような取組の推進をお願いします。**

- 早寝・早起き・朝ご飯の習慣の定着を図りましょう。
- 調和の取れた食事を心がけましょう。
- 十分に睡眠をとることができるようにしましょう。
- スマートフォンやゲームの使用時間を制限し、学習や読書、運動時間の確保を図りましょう。
- 学校行事等に積極的に参加するなど、学校との連携を図りましょう。
- 地域や社会のニュースについて話す機会を増やしましょう。
- 地域行事やボランティア活動への参加を促しましょう。
- 子どもとよく会話し、学校や家庭での生活状況の把握に努めましょう。